

平成28年緑化推進運動功労者 内閣総理大臣表彰受賞者・功績概要

〔個人〕

お がた よういち
尾形 洋一

(岩手県宮古市)

はたけやま しょうはちろう
畠山 章八郎

(宮城県気仙沼市)

ふく だ えいみつ
福田 栄光

(栃木県鹿沼市)

〔団体〕

みなみ ふ ら の ちよう
南 富良野町

(北海道空知郡南富良野町)

あらかわ かい
荒川バラの会

(東京都荒川区)

しゃかいふくし ほうじんじょうえいかい けい わ ほ いくえん
社会福祉法人浄英会 恵和保育園

(新潟県長岡市)

つ る みどり しょうじょたい
ガールスカウト都留緑の少女隊

(山梨県都留市)

やまなしけんりつのうりんこうとうがっこう
山梨県立農林高等学校

(山梨県甲斐市)

ひばりがおかやま て りよつかすいしん い いんかい
雲雀丘山手緑化推進委員会

(兵庫県宝塚市)

かぶしきがいしゃしませい き せいさくしょ ほんしゃこうじょう
株式会社島精機製作所 本社工場

(和歌山県和歌山市)

とくてい ひ えい り かつどうほうじん み うね し ぜん まも かい
特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会

(徳島県徳島市)

ちくりん かい
竹林をよくする会

(愛媛県西条市)

かんきようび か かんが かい
環境美化を考える会

(長崎県西海市)

お が た よ う い ち
尾形 洋一

岩手県宮古市

< 功績の概要 >

同氏は、高校生時代に生物部に在籍し、チョウの希少種であるチョウセンアカシジミの研究で日本学生科学賞岩手県最優秀賞を受賞。以後も独学で研究を行い、地元の貴重な昆虫の研究で「^{たかさきしょう}高碕賞」を2度受賞。

岩手県内各地でチョウセンアカシジミの生態、生息状況、環境等を調査・考察しつつ、生息個体数及び生息地の減少をくい止め、絶滅を防止するべく、幼虫の餌となるトネリコの植樹など生息環境づくりを推進し、チョウセンアカシジミが生息する市町村への情報提供・働きかけにより、各市町村の天然記念物指定をはじめとする保護施策を実現させた。以後現在まで、県内のチョウセンアカシジミ保護活動の指導的立場に立ち、植樹活動、産卵数調査、観察会、周辺環境整備などを続け、地域住民への保護意識の醸成、小学校での児童への学習・観察指導に尽力している。

また、チョウセンアカシジミの生息環境がいわゆる「里山」であることから、剪定や間伐の必要性を説き、チョウの卵や幼虫の有無の確認と、それらの移植による地域住民の生活とチョウセンアカシジミの保護を両立させる保護策を主導している。

はたけやま しょうはちろう
畠山 章八郎

宮城県気仙沼市

＜功績の概要＞

同氏は、長年にわたる高校の教職員時代に、学校林の管理や植物の育成などによる環境教育を通じて、生徒らへの「緑化推進啓発」や「自然の大切さ」に関する指導に熱心に取り組んできた。

また、高校在職中の平成8年に気仙沼市緑化推進協議会の理事となり、現在まで20年間の長きにわたり、市のフラワーロード「花のみち45」をはじめとした市内にある花壇の植栽・管理作業に関する講習会や現場での指導などを通じて、地域の方々への「環境美化運動」、「花いっぱい運動」の普及啓発に尽力している。

現在は、同協議会の副会長兼会長代行や、安波山^{あんばさん}「お色直しプロジェクト」推進委員会の副委員長を務め、官民一体となって取り組む気仙沼市の緑化推進活動において中心的役割を担っている。

なお、平成25年の都市緑化功労者国土交通大臣表彰受賞後は、自治会や老人クラブなどからの講師依頼や、全国の支援団体からの緑化活動を通じた支援事業などの調整や対応なども増えており、東日本大震災からの復興に取り組む気仙沼市において「花の魅力を生かしたまちづくり」、「潤いと安らぎの地域づくり」の牽引役として、日々活動に取り組んでいる。

ふく だ えい みつ
福田 栄光

栃木県鹿沼市

<功績の概要>

同氏は、昭和25年から41年間、栃木県の林業技術職員として、同県の林業振興や県土緑化の推進に尽力し、退職後は、栃木県造園高等技術学校や栃木県等が実施する「グリーンスタッフ」養成講座で講師を務め、若手技術者の育成指導から、緑づくりのボランティアの育成まで、幅広く後進の育成に尽力した。

また、平成4年に樹木医の認定を受け、現在に至るまで学校等の公共施設や県民からの相談に応じ、適切な緑化指導を行うなど、県内各地で活躍しているほか、日光国立公園小田代原のシンボルとして親しまれているシラカンバをはじめ、那須^{かし}甲子・塩原地域の八幡^{やはた}ツツジ群落など、多数の名木や景勝地^{じゅせい}の樹勢回復に携わり、大きな功績をあげている。

平成9年からの7年間は、社団法人栃木県緑化推進委員会のグリーンアドバイザーとしても活動し、市町や学校、一般市民からの緑化相談に応じ、中でも学校緑化の推進に尽力し、指導した学校を全日本学校関係緑化コンクールの準特選（平成10年及び12年）に導いた。

このほか、緑化に関する県民講座の講師等として、県内各地で幅広く活躍しており、県民による緑化活動の推進に大きな役割を果たしている。

みなみ ふ ら の ちょう
南富良野町

所 在 地 北海道空知郡南富良野町

代 表 者 町長 いけ べ あきら
池部 彰

＜功績の概要＞

同町は、四方を山に囲まれた大雪山国立公園や富良野芦別道立自然公園に指定されるなど、豊かな自然環境に恵まれた地域にあり、こうした自然環境や大雪山の山々を源流とする清らかで豊富な水資源を貯える森林資源を次世代に引き継ぐため、緑化活動を積極的に推進している。

具体的には、10年以上にわたって毎年実施されている以下の3つの植樹活動が挙げられる。「フォレストタウン記念植樹祭」は、住民参加による緑豊かなまちづくりを目的に行われ、地域住民の緑化意識の定着に寄与している。「水源の森創造植樹」は、下流域である滝川市の市民団体や町内の女性林業グループをはじめとする団体とともに、上下流の住民が森林についての研修、植樹活動を通じた交流を行うことで、緑化思想の普及啓発につながっている。また、ダム湖畔の「アオダモの森」では、プロ野球選手を招いて、バットに使われるアオダモの植樹活動を子供たちとともにっており、植栽した樹木の成長だけでなく、ふるさとの森づくりの将来の担い手づくりにもつながることが期待されている。

また、近年の特筆すべき取組としては、絶滅危惧種に指定されている魚のイトウを保護するための「川が濁らない山づくり」を進めるなど、ダム湖周辺環境を保全していくため、積極的な森林整備を進め、水源涵養機能すいげんかんようの維持強化を図っている。

あらかわ かい
荒川バラの会

所 在 地 東京都荒川区
代 表 者 会長 岸^{きし} ゆり

< 功績の概要 >

荒川区では、区の中央部を都電荒川線が走っていることから、この路線を「街のみどりの軸」として位置付けており、昭和61年に東京都交通局と締結した協定に基づいて沿線へのバラの植栽事業を進め、現在では約140種13,000株のバラが美しい花々を咲かせている。

これらのバラの維持管理の一翼を担っているのが、平成14年に結成した「荒川バラの会」であり、年間を通じて剪定や花がら摘み、除草、清掃等を行っている。

バラの手入れには専門的な知識と高度な技術が必要とされるため、会員は区が主催する講習会に積極的に参加し、熱心に技術の習得に取り組んでいる。また、経験豊富な会員が新規会員の指導を行い、技術の伝承も行われている。

「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰受賞後の平成25年には、会員数が急増したため、管理する花壇を4か所から5か所に増やし、活動の範囲を広げている。また、より質の高い知識と技術を求め、年1回春に実施していたバラ園の見学講習会を、春と秋の年2回にし、咲き方の違いや季節にあった管理方法を学んでいる。

同会の活動は、その輪が広がることで地域の活力の向上につながるとともに、沿線に咲くバラは荒川区の観光振興にも寄与するものとなっている。

しゃかいふくしほうじんじょうえいかい けいわほいくえん
社会福祉法人浄英会 恵和保育園

所 在 地 新潟県長岡市
代 表 者 園長 さんじょう 三条 きみ こ 公子

< 功績の概要 >

同園は、昭和57年の開園当初から34年間にわたり、緑化活動を実践し、園児と職員、保護者が一体となり取り組んでいる。(平成27年：園児326名、職員65名)

園内で自家生産した花苗(平成27年は約1,600本)をはじめ、さまざまな樹木や地域の伝統野菜などを園庭や保育園に通じる道路脇のプランターに植え、四季を通じて花や緑に触れることができるよう工夫している。

なお、自家生産の花苗は園児が種まきから種取りまでを体験しながら育てるとともに、採取した種は家庭に持ち帰り、発芽から開花までの様子を親子で観察・記録し、園の行事の際にその内容を掲示して来園者に紹介している。

また、活動は園内にとどまらず、育てた花や野菜や種子を老人福祉施設等に届ける世代間交流をしたり、市内の公園やイベントでの緑化・植樹活動に参加して地域交流を積極的に行っている。

さらに、園庭を一般に開放したり、地元小学生の総合的な学習の時間や、中学生の職場体験の受入れにより、園児とともに花にふれる機会を提供するなど、多くの人々に花や緑に触れる機会を提供している。

ガールスカウト^{つ る みどり}都留^{しょうじょたい}緑の少女隊

所 在 地	山梨県都留市
代 表 者	指導者 ^{さとう} 佐藤 ^{ひでこ} 秀子

< 功績の概要 >

同隊は、昭和51年のガールスカウト山梨県連盟結成から、40年にわたり、子供たちの健全育成に寄与した活動に取り組み、特に平成13年から緑の少女隊として年間20回近くに及ぶ緑化活動に取り組んでいる。

活動は、緑や自然にふれあう森林学習会やネイチャーゲームといった身近な活動から、里山での草刈りやつる切りといった自然保護活動まで幅広く、特に緑化イベントには他の範として積極的な取組を見せている。

毎年5月に実施される県の緑化推進イベントである「県民緑化まつり」(参加者約500名)における植樹活動への協力や里山でのゴミ拾い活動、緑の募金活動等に継続的に取り組んでいる。特に、緑の募金活動は、隊員それぞれが「1年間、1日1円の節約」を行い自らを律して募金しつつ、他を思いやるという心を育むものであり、子供たちの自立心を醸成するとともに、子供たちが日々できる社会貢献活動として顕著なものである。ほかにも、自然の素材を活かした草花叩き染めを地域住民に教えたり、隊員たちがつくった炭を地域のバザーに出品したりして、地域住民の緑化思想の普及啓発に貢献している。

やまなしけんりつのうりんこうとうがっこう
山梨県立農林高等学校

所 在 地 山梨県甲斐市
代 表 者 校長 なかじま 中島 かつひと 勝人

＜功績の概要＞

同校は、終戦後旧陸軍の飛行場の跡地に学校を移転し、職員や生徒により、荒れ地を全国屈指の「緑の学園」に創り上げてきており、昭和26年にはフランス式庭園、昭和55年には日本庭園等を造成した。

平成5年からは、地域の福祉施設や駅などの飾花並びに樹木の手入れなど、地域の緑化協力に取り組み、平成8年には「緑のスクールパーク」として、庭園を地域住民や幼稚園の園児、小・中学校の児童生徒等に開放し、樹木ラベルや庭園案内板を設置して自然と親しむ工夫を施している。

また、平成21年からは、育苗やその苗木の植樹等を通じて、同校を明治42年に卒業した林業技術者^{あさかわたくみ}浅川 巧 氏の生き方を学ぶ取組を推進している。

平成24年からは、東日本大震災を教訓に防火樹の植樹や防火機能の学習など、防災意識を高める緑化教育を行っているほか、平成26年度からは、甲斐市のヒノキ林伐採跡地に広葉樹を植樹するボランティア活動にも参加している。

このように、長期にわたって緑化活動を継続するとともに、更なる活動の充実を図っている。

ひばりがおかやま てりよつかすいしん い いんかい
雲雀丘山手緑化推進委員会

所 在 地 兵庫県宝塚市
代 表 者 委員長 しのはら 篠原 ていぞう 悌三

＜功績の概要＞

雲雀丘山手緑化推進委員会は、宝塚市が平成13年に緑化環境保全と育成に向けて立ち上げた「雲雀丘山手地区計画等推進委員会」を引き継いだ組織であり、都市近郊部における自然と人の共生をはかるべく、多くの地区住民を巻き込んで地域緑化活動を続けている。

主な活動としては「私地公景の理念」のもと、公園毎朝清掃運動、苗木配布による民家・空き地への樹木植栽、1本切ったら10本植えよう運動、桜並木の新設と復活活動、子どもの緑の勉強会、緑の木陰の音楽会、各種調査レポートの発行など独創的かつ自発的な地域緑化活動を企画推進するとともに、「緑のかわら版」等で広報し、住民の地域への関心・緑化活動への参画意識の向上に寄与している。

また、同委員会の代表等は、上記国内活動と並行して東南アジア7か国で海外植林活動を行っている。平成16年にNPO法人「Green Solutions(グリーンソリューションズ)」を設立して、既に37万本の植林支援を完了し、小学校校舎4校を建設寄贈している。

このような活動により各地からの視察が訪れるほか、大阪府高齢者大学校での講義、民間団体主催の講演、メディア露出等を通じて更なる普及啓発に努めている。

かぶしきがいしやしませい き せいさくしょ ほんしゃこうじょう
株式会社島精機製作所 本社工場

所 在 地 和歌山県和歌山市

代 表 者 代表取締役社長 しま まさひろ
島 正博

＜功績の概要＞

同社は、和歌山市の南東部に位置し、周辺に住宅地が近接して立地しているが、敷地面積90,883㎡のうち、緑地が約30%を占め、工場敷地の周囲だけではなく、生産施設を囲うように植栽するなど、周囲から見えにくいように配慮した工場緑化に取り組んでいる。

緑地には、和歌山県の木であり備長炭としても使われているウバメガシや県の花であるウメといった地域の特徴的な樹木をはじめ、サクラやカリン、ハンカチノキ、サツキ、ツツジなどの高木から低木まで多品種の植栽がなされ、散策路も整備されている。ほぼ全ての樹木に樹名板が設置されるなど、手入れも行き届き、一年を通じて美観が保たれている。

緑地と散策路は日常的に社員に利用されているだけでなく、夏には、敷地内の広場が盆踊り会場として利用されているほか、プールを子供たちに開放するなど、工場緑化を通じて地域住民との交流も深めており、地域からも親しまれている。

とく て い ひ え い り か つ ど う ほ う じ ん み う ね し ぜ ん ま も か い
特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会

所 在 地 徳島県徳島市

代 表 者 理事長 暮石 洋

< 功績の概要 >

同会は、「徳島・三嶺を守る会」として平成12年に活動を開始し、四国・剣山^{つるぎさん} 国定公園の西端に位置し、高知県と徳島県にまたがる三嶺を中心に、緑化推進活動、自然環境保全・美化活動等に取り組んでいる。

主な活動としては、剣山山系で深刻な問題となっているニホンジカによる食害対策として、国やボランティア参加者と協力し、樹木ガード巻きによる保護活動や、山頂部のシカ防護柵の維持・補修作業を行うなど、行政や他団体等と連携した取組を続けている。

また、被害状況の記録、シンポジウムや講演会、写真・パネル展の開催等の啓発活動等も継続して行っているほか、山頂トイレの点検・清掃、登山者へのマナー啓発等、環境美化活動も精力的に行い、平成27年度からは、シカ食害により植生が失われて起きる登山道の深掘れの補修を開始した。

近年は人材育成にも力を入れており、徳島県の新規採用職員研修でのボランティア活動体験の積極的な受入れや、同会が所属する「生物多様性とくしま会議」において、フィールド講座の開催等を行っている。

ちくりん かい
竹林をよくする会

所 在 地 愛媛県西条市
代 表 者 代表 まえやま たけ お
 前山 竹生

< 功績の概要 >

同会は、平成14年に設立され、放置^{ちくりん}竹林を間伐・整備して周辺の樹木を守り、水源涵養^{かんよう}などの環境保全の効果を高め、次の世代へ豊かな自然を残すとともに、炭焼きや竹細工などの里山の恵みを利用した「里山文化」の継承に努めることを目的に森林ボランティア活動を行っている。

会員数は110名で、事務局のある西条市^{と の やま}兔之山を拠点として同市や新居浜市内の公園や公共施設周辺の放置竹林の整備を行うほか、地域住民からの依頼を受けて放置竹林の整備を手助けするなど、その意欲的な活動は、県内の他の森林ボランティア団体の模範となっている。

また、毎年地域のイベントに参加し、竹の利用方法や竹林整備活動を紹介する展示を行い、活動のPRを積極的に行うとともに、定期的に竹細工の体験教室を開催することにより、都市部の若者層の参加も増え、活動の輪が広がっている。

これらの活動を通して、生物の多様性や水源涵養機能など公益的機能の低下が懸念されている地域の森林の現状について参加者に肌で感じてもらい、森林づくりの大切さの理解を促すことにより、森林所有者と都市住民が一体となった森林保全活動の推進、山村地域の活性化に大きく貢献している。

かんきょう び か かんが かい
環境美化を考える会

所 在 地 長崎県西海市
代 表 者 代表 田口 昭子

< 功績の概要 >

同会は、昭和58年から大島町^{おおしまちょう}を主として活動を開始し、最初はゴミ拾いから始まり、道路の除草や花の植栽と活動の内容を広げ、現在は、県道沿いを中心に花の植栽や除草作業、空き缶回収等の美化活動だけでも年間20回を超える活動を行っており、県内道路の清掃・美化に大きく貢献している。

活動範囲は、道路だけでなく小学校の校庭などにも広げており、児童たちと交流しながら花苗の植栽を行い、毎年様々な花を咲かせ、子供たちの豊かな心の育成にも寄与している。

近年では、廃校のグラウンドを開墾した「元気やさい雅」^{みやび}で花の苗を育てたり、生ごみや清掃後の草・落葉等を活用した無農薬野菜を栽培しており、育てた花の苗は道路に植えたり、小学校へ配布するなどを行っている。また、子供たちが農業体験を行ったり、実際に収穫した野菜を調理して食べることを通して、この農園が食育や地域との交流の場にもなっている。